



今回は、南木曾町を代表する観光地でもあり、国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている「妻籠宿」のご紹介です。

妻籠宿は、慶長六年（一六〇一年）徳川家康によって「宿駅」が定められ、江戸から四十二番目の宿場として整備されました。明治以降宿場としての機能を失い衰退の一途をたどりましたが、昭和四十三年から始まった町並み保存事業により江戸時代の面影がよみがえりました。

かつて中山道木曾十一宿の一つとして栄え、出梁（だしばり）造りや卯建（うだつ）を用いた伝統的建造物が軒を連ねる町並みは、実際に人が住み生活することで、地域特有の民俗が醸し出され、テーマパークにはない情緒が生ま

れています。

宿場の見どころをいくつか紹介しますと、まず南木曾町博物館の三館のうちの一つであり国の重要文化財にも指定されている「脇本陣奥谷」があります。代々脇本陣・問屋を務めた家で、現在の建物は明治十年にそれまで禁制であつた桧をふんだんに使い建て替えたものです。また、島崎藤村の初恋の相手「ゆふ」さんの嫁ぎ先でもあります。



脇本陣奥谷

す。脇本陣奥谷では荘厳な囲炉裏端での昔の生活ぶりなど、生きた歴史を語り部から聞くことができます。

また、同じく三館のうちのひとつである「妻籠宿本陣」は、代々島崎氏が勤めていましたが、明治二十年代に最後の当主広助（島崎藤村の実兄）が東京に出て、建物も取り壊されました。本陣跡地はその後、御料局や営林署に使用さ

れています

ですが、町に払い下げられたのを機に、平成七年、江戸時代後期の間取図をもとに忠実に復元されました。往時のままの豪壮な姿をお楽しみいただけるほか、島崎家縁の人物の展示もご覧いただけます。



妻籠宿本陣

そして日本で最初に宿場保存事



妻籠宿夕暮れ（寺下の町並み）

業が行われ妻籠宿保存の原点とも言うべき「寺下の町並み」です。家並みは素朴で繊細であり、昔の旅籠そのままに出梁造りや堅繫格子（たてしげごうし）の情緒たっぷりの家々が並びます。

◆所在地

長野県木曾郡南木曾町吾妻 二一五九一二

◆アクセス方法

【中央道】中津川ICから塩尻方面へ約三十分南木曾大橋を渡った直後の信号を右折し、五百円で妻籠入口

【鉄道】JR中央本線南木曾駅下車

タクシー十分 バス十分 徒歩四十分

◆お問い合わせ

南木曾町観光協会  
Tel.〇二六四一五七一二〇〇一

